

## 大会長講演

## 多様化する臨床検査技師教育 — 現在と今後 —

秋山 秀彦\*

キーワード 臨床検査技師教育、国家試験、大学院教育

## はじめに

本学会ははじめてのWeb開催となりました。本学のご紹介も兼ねて、臨床検査技師教育の現在と今後について、私見ですが書かせていただきます。

藤田医科大学は、1968年に名古屋保健衛生大学衛生学部衛生技術学科として開学し、その後、2回の名称変更を経て、現在に至っています。

## I. 本学の医療検査学科

2019年より新カリキュラムが開始されました。1年次と2年次は共通科目を学び、3年次からは、臨床検査技師養成プログラムと臨床工学技士養成プログラムに分かれて、各単位を修得後、各国家試験を受験します。入学前に迷っている学生は、入学後に進路を決めることができます。1年次は基礎教養科目を学び、2年次は検査・工学の専門科目があるため、はじめは戸惑いもあったようです。しかし、将来希望した職種になるためには、重要であることが分かるとその迷いも少なくなりました。お互いの職種をより理解することで医療人としての今後が期待されます。

## II. 臨地実習前の技能修得到達度試験

技能修得到達度試験は2022年度より制度化さ

れますが、今後の病院の測定機器はさらに自動化が進むことは避けられないことで、AI・ロボット技術も加わり、加速していくと思います。血液検査を例にとると、病院検査室では自動化が進み、用手法は異常と判定された検体での血球数算定および目視による細胞判定、特殊染色等、限定されると思われます。一方、学内実習では、当然、用手法が中心であります。臨地実習前の技能修得到達度試験の項目設定については、血液塗沫標本作製と普通染色、血球数算定、血液細胞分類、凝固試験等が検討されていますが、実施する項目については、かなり限定されます。病院と教育現場との測定方法の違い等は悩ましい問題です。また、用手法の検査試薬も製造中止となるものがあり、教育現場では苦慮しています。

## III. 国家試験について

国家試験合格は最低条件であり、なんとか高い合格率を維持してきました。この数年間は、4年次の留年生は出さずに、全員卒業・全員国家試験合格をめざし、教員一丸となり、学生を指導しています。医学領域における臨床検査学入門 創設者 藤田啓介総長先生の志を引き継ぎ、現在も、医学領域における臨床検査学入門 第4版として刊行されています。藤田総長先生は、覚えにくい

\* 藤田医科大学 医療科学部 臨床検査学科 hakiyama@fujita-hu.ac.jp

ものはキャッチフレーズ、簡単なイラスト、文章は短く簡潔にする等、色々な工夫をされました。この教えに従い、この入門書は作成されています。本学の学生は国家試験対策として、常時携帯しています。しかし、成績の伸び悩む学生に対する国家試験対策指導について、毎年、大変に苦勞しているのが現状です。

#### IV. 大学院教育

大学院への進学を希望する学生は、近年増加しており、定員数の10～15%程度は進学します。この数字は私学としては、多い方と思っています。どの大学の修士課程は特色あるものがあるとします。本学の特徴として、CRC(治験コーディネーター)、遺伝カウンセリング、胚培養士等、資格取得を目指したコースがあり、希望する学生も増えてきました。また、臨床検査技師の資格を有する大学院生は、病院でのテーチングアシスタント(TA)制度を利用し、希望者は病院検査部での臨床業務の補助を経験することができ、

研究だけでは得られない大きな教育効果が期待されます。この制度がある大学もあると思いますが、2年前より本学も実施しましたが、希望する院生も多く、大変により教育システムとして自負しています。

#### おわりに

最後に教員の先生方は、講義・実習・研究等、毎日多忙な日々をお過ごしと思います。さらに、多様な学生がおり、その対応に苦慮することも多々あると思います。しかし、卒業時には笑顔で卒業証書を渡し、病院での臨床検査技師、企業、研究職等、それぞれの分野で活躍してほしいと願う気持ちは、教員一同、同じ気持ちであることは変わりないと思います。

第15回日本臨床検査学教育学会学術大会はWeb開催でありましたが、多くの教員、大学院生、学生の皆さんに参加登録をいただき、感謝申し上げます。皆様の益々のご発展とご健康を祈念致します。



写真 藤田医科大学と大学病院